

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍の若者と農業を救うCSAの実証
資金分配団体名:	一般財団法人リープ共創基金
実行団体名:	特定非営利活動法人LAMP
実施時期:	2020年2月～2021年1月
事業対象地域:	岩手県
事業対象者:	ニート・引きこもり及びコロナ禍で収入減少した18歳から44歳までの若者

Version 3.3

日付: 2022年2月10日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>(1)消費者のシェアをする（CSAの設計） 「働き続けられる環境づくり」と、緊急事態に機能する「地域セーフティネット」としての役割を担うCSAの仕組みを構築、導入し、農業の安定的な収入確保の実現をする。</p> <p>(2)農業人材のシェアをする（CFW） 対象地域の農家と若者をマッチングし農作業に従事してもらい、また農家それぞれに合わせた「デジタル化」について若者が創意工夫をしながら取り組む。受け入れ農家については地域の複数農家と連携して行う。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>(1)CSAについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のほとんどの農家は地域内での販売をメインとしており、地域外（特に都市部）への顧客の開拓をあまり考えていないようだが、CSAについては関心を示していた。今後「地産地消」に向けた地域住民をターゲットとして展開が期待できる。 ・地域外への展開として、東京で定期的に販売会やオンラインイベントを開催しているマート城山と、首都圏の連携先として協議を続けてきた。まずは首都圏の消費者に陸前高田市の農家や農産物を「知ってもらうこと」が必要と考え、イベントなどを通じて消費者との交流を深め、関係構築に取り組んでいくことになった。 ・CSAという形式ではないが前段階として、8月より毎月2回の市役所での販売会を始めて、そこには販売を希望する地元の農家が多数あり、消費者のリピーターも増え、今後のCSAとしての可能性を見ることができた。 ・複数農家から複数の産物を取り扱うことになると、季節ごとの種類や集荷や農家、会員の管理などの対応が想定よりも管理に手がかることから人員的に現時点では難しく、まずは単品（LAMPの米崎りんご）から始めて管理体制を整え、次年度以降徐々に産物を増やしていくことになった。 ・LAMPはあくまでもりんごの生産団体であり、今後産物を広げていくのであれば、LAMP単体ではなくLAMPも所属している地域の若手農業者団体の「陸前高田食と農の森」で実施する方向で調整を進めている。 <p>(2)CFWについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域ではコロナ禍による収入減少、失職という若者の対象者が少なかったが、無職の状態にあり就労支援を受けている若者のステップアップの機会として希望する人が多かった。 ・圃場での農作業だけでなく、パソコン操作ができる人には、データ入力や資料作り、伝票発行など、パソコンを使った作業にも携わってもらった。 ・LAMPは就労支援の専門家ではないため、専門団体と連携して行ったが、体調管理や欠勤、勤務する姿勢など、雇用したスタッフの現場でのケアや出向先のかとのマッチングに想定以上に手間がかかり、ミスマッチングの発生やケアが行き届かないことを懸念し人数の調整を行いつつ受け入れを行なった。 ・ハローワークに求人掲載したところ、本事業の対象年齢の上限44歳までの年代よりも50代60代からの問い合わせが多かった。
助成事業実施を通じた団体の成長に関する振り返り	<p>①これまでアルバイトとして複数名雇用した経験がなく、雇用体制や規定類、保険等のガバナンス体制の構築に繋がった。</p> <p>②地域の複数農家と連携したことによりネットワークができ、地域農業の課題を知ることができた。</p> <p>③農園管理担当スタッフが複数のアルバイトに作業指導することにより、「指導者」としての経験を積むことができた。</p>

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ニート・引きこもり	就業困難	コロナ禍で収入が減少した若者の雇用	雇用した就労支援対象者数	28名	9名	対象としていた18歳から44歳に該当する就労希望者が少なく、それ以上の年代（50代60代）からの問い合わせが多かったことから、対象年齢を大幅に引き上げる必要を感じた。
ニート・引きこもり	就業困難	支援プログラムを完了	途中離脱せず、予定されていたプログラムを完了した人数	28名	8名	1名は就労経験がなく「お金をもらって時間を守って働く」ということにプレッシャーを感じてしまい途中離脱。就労支援団体に繋がった。
ニート・引きこもり	就業困難	事業終了後の就労	事業終了時に就労している人数	12名	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人でアルバイトとし継続雇用1名、正規雇用検討1名 ・農業関係への就労3名 ・フリーランスとして起業検討中1名 	就労支援団体の判断で当法人での雇用終了後でも就労困難と見受けられる人もおり、支援継続者や求職活動に入る人もいる。
ニート・引きこもり	就業困難	事業終了後の就労	雇用終了後半年後に就業している人数		※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします	※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします
受入企業・団体	その他	受入企業の売上増 ※該当する団体のみ	売上			
受入企業・団体	その他	受入企業での新企画実施 ※該当する団体のみ	実施した新企画数			

地域	その他	農家が支援対象者の受け入れをする	受け入れ農家数	30軒	5軒	協力を依頼し受け入れを希望する農家は12軒あったが、農家の実際に作業が必要な時期（曜日、時間帯も含め）と、求職者の希望勤務曜日、時間のタイミングが合わず、5軒のみのマッチングに至った
地域	その他	CSAの仕組みが構築されている	CSAリリース状況	リリース日の確認	2021年11月にお試しプログラムとしてりんごのみで実施（2022年1月まで）	連携農家の開拓と説明、体制構築に時間を要し、地元農家のニーズに合ったものにするため、内容の検討を何度も繰り返したことから、2022年1月のリリースには至らず、次年度以降のリリースを目指す。
地域	その他	地域内外でCSAへの入会が進んでいる	CSA会員数	50人	15人	11月から1月までお試しプログラムとして、事前購入のりんごが買えるチケット制で実施。チケット制にすることで、「使わなければ」という思いにもなり、購入が促進され有効的だと思われる。
地域	その他	CSAにより売り上げが確保されている	会費売上	1,000,000円	15,000円	11月から1月までお試しプログラムとして、事前購入のりんごが買えるチケット制で実施した際の売上。目標には至らなかったが、チケット制にすることで、わかりやすいシステムを検証することができた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	農業が今後「働ける場所」として安定した収入を得られるように、引き続きCSA導入に向けての体制を構築する。当法人のりんごの購入者は約50%がリピーターであり、そのうち約20%の顧客なシーズン中に何度も購入してくださっている。まずはそういったお客様や、陸前高田とつながりのある方を対象に、米崎りんごからCSAを始められるよう体制を再整備し、2022年度は会員50名、売上1,000,000円を目指す。そのりんごの顧客を軸に地域他産物も巻き込み取り入れていこうと考えている。
考察等	就労支援において農業は非常に有効であり、また人手不足の農家の人材確保にもつながる。 就労支援においては専門家ではないため、支援団体等専門機関を通して受け入れ、支援対象者のグリーンケアは支援団体に行っていただくなどの対応を明確にし、若者の就労に向けたより良い環境づくりに取り組む。 当法人としての役割は、「働ける場所を作ること」だと考えており、りんご（農業）において就労し、しっかりと収入を得られる環境を作るために、CSAの実施は不可欠だと考えているため、2022年度中の本格的なリリースに向けて準備を進めていく

V. 活動

活動	進捗	概要
CSAの設計、関係団体との調整	遅延あり	法人内での協議、関係農家との調整を行なったが、プログラム内容の検討や体制構築に時間を要している
CSAの広報物の制作	遅延あり	上記の理由からリリースが遅れているため
CSA会員募集	ほぼ計画通り	2021年11月から3カ月間のみのお試しプログラムとしてりんごのみで募集（2022年1月終了）
CSAプログラムリリース・運用開始	遅延あり	地域農家のニーズの洗い直しと体制を検討し、次年度以降まずはりんごのみでのプログラムを開始することになった
支援対象者へ向けて雇用・受入・報酬を支	計画通り	農繁期等の関係で募集開始は若干の遅れ生じ、目標人数には遠く及ばなかったが、スケジュールとしては概ね計画通りだった

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	他農家と連携し人員を出向させる取り組みを始めて行なったことから、受け入れ農家やLAMPも所属している若手農家団体「陸前高田食と農の森」から、農家同士で人材をシェアできる仕組み作りについての話が出たことから、LAMPも含めた陸前高田食と農の森内で協議を始めており、今後はCFWの実施の可能性の検討も含め、陸前高田食と農の森の活動の一環として、陸前高田ユニバーサル就労支援センターや福祉法人との連携も進めていきたいと考えている。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	「農業の担い手不足」という点では、本事業での雇用を通じて繋がった農家にそのままパートとして雇用されたり、当法人でもアルバイトとして1名継続している。これまで農業分野や農家と繋がりがなかった人にとって、農業に携わるとい選択肢が増えた。 ただ、農業における雇用は少なく、繁忙期のパート、アルバイトがほとんどである。独立して就農するにもハードルが高くすぐには難しい。 今後はそういった人たちが農業で就労し安定した収入を得られる「仕事」になるような基盤となる「CSA」の構築と、地域農家との連携による人材シェアシステム作りに積極的に取り組んでいく。 就労支援においては6ヶ月経過したのちにもまだ就労は難しく、働く上で必要なことをまだまだ身につける必要がある人もいた。陸前高田ユニバーサル就労支援センターとは今後も協力体制を継続し、農業によって支援対象者がスムーズに就労できる環境作りに取り組む。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
陸前高田食と農の森	受け入れ農家の紹介、マッチング協力
陸前高田ユニバーサル就労支援センター	支援対象者の紹介、サポート
マート城山	首都圏でのCSA展開における連携
練馬グレースチャペル	首都圏でのCSA展開における連携、販売会等のイベント開催協力

IX. インプット ※事業完了月の経費精算書の金額を入力ください。

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,395,820	1,884,200	78.6%
	管理的経費	1,512,300	1,513,686	100.1%
	雇用関連費	4,091,880	1,598,760	39.1%
合計		8,000,000	4,996,646	62.5%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	特になし
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	特になし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	特になし
4.報告書等	特になし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	